

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	ECCアーティスト美容専門学校
設置者名	学校法人山口学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数 又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
文化教養 専門課程	トータル・メイク学科 トータルビューティ スタイリストコース	夜・通信	2610 時間	240 時間	
	トータル・メイク学科 ヘアメイクアーティスト コース	夜・通信	2580 時間	240 時間	
	アーティスト学科 ビューティアドバイザー コース	夜・通信	1590 時間	160 時間	
	アーティスト学科 ネイリストコース	夜・通信	1710 時間	160 時間	
	アーティスト学科 ブライダル・ ウェディングコース	夜・通信			
	プロ専科 トップスタイリストコ ース	夜・通信	870 時間	80 時間	
	トータルビューティ基 礎学科	夜・通信	840 時間	80 時間	
衛生専門 課程	美容科	夜・通信	2262 時間	160 時間	
(備考) アーティスト学科ブライダル・ウェディングコースは 2024 年度より募集停止 (2025 年 4 月より在籍生なし)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

Webサイトにて公表。【URL】

<https://www.ecc.ac.jp/syllabus/art/>

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	ECCアーティスト美容専門学校
設置者名	学校法人 山口学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表 https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-about2024.pdf 6ページ参照

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	元大阪府議会議員 (1983.5.1 ~ 2011.4.30) 2011.5.1以降は「無職」	1991.11.15 ~ 2028年度 定時評議員 会終結の時	学校経営に関する こと
非常勤	税理士事務所経営 (1984.6.1~)	2010.6.1 ~ 2028年度定 時評議員会 終結の時	財務に関すること
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	ECCアーティスト美容専門学校
設置者名	学校法人山口学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 本校では教科主任教員がカリキュラムポリシーに基づいて、授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの授業計画も3月中に教員間で共有され、学生には初回授業で配布説明されている。また、Webサイト上でも全ての必修科目の授業計画が公開されている。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>Webサイトにて公表。【URL】 https://www.ecc.ac.jp/syllabus/art/</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 山口学園教務規約にて、以下の通り記載し、HANDBOOK掲載によって学生および保護者に伝えている。</p> <p>第4章 単位認定</p> <p>第7条(単位認定方法) 各科目の単位認定は、以下の基準を全て満たすことで行う。</p> <p>(1) 授業出席率が75%(アーティスト美容専門学校美容科実習科目は80%、2022年度入学生より全科目85%)以上であること。</p> <p>(2) 総合評価点が60点以上であること。</p> <p>第8条(総合評価点) 各授業または単元終了時の「素点」及び「平常点」「課題点」から決定される評価点を総合評価点とする。ただし出席率が規定に満たない場合、総合評価点は0点となる。</p> <p>第9条(平常点・課題点) 平常点と課題点は、授業の取り組み状況から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。</p> <p>第10条(学期末試験・評価) 各科目の評価は前期・後期それぞれの期末に実施する。評価結果は保護者または保証人に郵送通知する。(アーティスト美容専門学校美容科通信課程を除く)</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)
山口学園教務規約にて、以下の通り記載し、HANDBOOK掲載によって学生および保護者に伝えている。また、Webサイトでも公開している。

第4章 単位認定

第11条 (成績評価ランク)

算出された総合評価点に基づき、下記のように成績評価ランクを決定する。

総合評価点	ランク	グレードポイント	合否	基準
90点～100点	A	4.0	合格	特に優れている。
80点～89点	B	3.0	合格	優れている。
70点～79点	C	2.0	合格	一定の水準を満たしている。
60点～69点	D	1.0	合格	最低限の理解をしている。
0点～59点	F	0.0	不合格	学習目標に達していない。

2 GPAの適用

GPAとは“Grade Point Average”の略で、学生の成績評価方法の一つであり、本学では学生自身が学習効果を数値化して把握するため、GPAを適用している。履修した科目の評価「A」、「B」、「C」、「D」、「F」に対して、それぞれ「4」、「3」、「2」、「1」、「0」のGP (Grade Point) を与え、取得したポイント (GP×単位数) の合計を履修登録された総単位数で割った、1単位あたりの成績の平均値である。

3 GPAの算出方法

$(4 \times \text{「A」の単位数} + 3 \times \text{「B」の単位数} + 2 \times \text{「C」の単位数} + 1 \times \text{「D」の単位数} + \text{「F」の単位数} \times 0) \div \text{総履修登録単位数}$

※特別単位はGPAの計算に算入されない。

4 客観的な指標に関する判定にGPAを利用する際は、各校で当該単年度の全学生を母集団として算出する。

客観的な指標の算出方法の公表方法

HANDBOOKに掲載し、Webサイトでも公開。
https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/eccart_HANDBOOK.pdf

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>教育目的に基づいた教育目標・ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを分野ごとに定めており、卒業該当学年の各コースに設定された単位を修得しているものに対して、学年末に卒業判定会議を開催し、学校長が卒業を認定する。規定はHANDBOOKで学生および保護者に伝えていると同時に、Webサイトでも公開している。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>HANDBOOKに掲載し、Webサイトでも公開。 https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/eccart_HANDBOOK.pdf</p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	ECCアーティスト美容専門学校
設置者名	学校法人 山口学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance002_2024.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance001_2024.pdf
財産目録	https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance003_2024.pdf
事業報告書	https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-project2024.pdf
監事による監査報告（書）	https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance004_2024.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化教養専門課程	トータル・メイク学科 トータルビューティ スタイリストコース	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義 450	演習 2250	実習	実験	実技
3年	昼間	2550 単位時間/単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			2700 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
270人の内数		66人	0人	3人	10人	13人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>本校では教科主任教員がカリキュラムポリシーに基づいて、授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの授業計画も3月中に教員間で共有され、学生には初回授業で配布説明されている。また、Webサイト上でも全ての必修科目の授業計画が公開されている。URL: https://www.ecc.ac.jp/syllabus/</p> <p>【教育目標】</p> <p>ヘアメイクアーティスト、美容師、ネイリスト、アイリスト、になるため、各専門力をバランスよく習得すると共に、海外からのお客様に物応じすることなく接客できる国際力を習得し、将来的に多方面で活躍できる人材を育成する。</p> <p>【ディプロマポリシー】</p> <p>コース教育目標に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修めかつ、卒業ま</p>

でに指定された資格・検定もしくはこれに準じる基準に合格した学生に対して卒業を認定する。

(専門力)

- ・「美容師国家試験」に準じる学内卒業試験に合格していること。
- ・「JNEC ネイリスト技能検定1級」を取得していること。もしくは同等の技術を習得していること。
- ・「国際アイラッシュ協会検定1級」を取得していること。もしくは同等の技術を習得していること。
- ・「JBMAメイクアップ検定 Professional」を取得していること。もしくは同等の技術を習得していること。
- ・作品撮影(ブック製作/プレゼンテーション)が学内合格水準を満たすこと。

(人間力)

- ・柔軟な思考力を持ち、多様な意見を受け入れつつ、自身の意見を発信できるようになる。

(国際力)

- ・サロン・美容現場において英会話を用い、グローバルな人材層に接客対応できるようになる。

(ICT 活用力)

- ・ICTを活用し、情報処理能力と発信力を高め、SNSを正しく有効に使用できるようになる。

【カリキュラムポリシー】

ディプロマポリシーに掲げる力を習得した美容技術者になるために、以下の意図をもってカリキュラムを構成している。

- ・クレンジングからフルメイクまでのメイクアップ基礎技術・知識を習得する。(1年次)
- ・ヘアアレンジの基礎を習得し、作品イメージに合ったヘアスタイルができるようになる。(1年次)
- ・ネイルケア・カラーリング・チップ&ラップ、アート等の基礎技術・知識を習得する。(1年次)
- ・色彩学、デッサン、ファッションの基礎技術・知識を習得する。(1年次)
- ・英会話の基礎となるフレーズを習得し、異文化を理解できるグローバルマインドを育成する。(1年次)
- ・撮影技術、データ加工技術を習得する。(1年次)
- ・美容師国家資格取得に必要な技術・知識を習得する。(1~3年次)
- ・顔分析法によるメイク技術、年代別・シチュエーション別、ブライダルメイク等の応用技術・知識を習得する。(2年次)
- ・スカルプチュアの応用、ジェルネイル、ミックスメディアアート等のネイル技術・知識を習得する。(2年次)
- ・グローバル社会に対応すべく、美容業界で使用する英会話定型フレーズを用いて接客できる技術を習得する。(2年次)
- ・テーマやシーンからイメージし、ヘアアレンジ応用技術を習得する。(2年次)
- ・ヘアメイク、ファッションの応用技術であるトータルスタイリングに関する技法を習得する。(3年次)
- ・ジェルネイルの中級・上級技術を習得する。(3年次)
- ・アイラッシュ技術を習得する。(3年次)
- ・着付けの基礎技術・知識を習得する。(3年次)
- ・サロン・美容現場において英会話で接客できる技術を習得する。(3年次)

成績評価の基準・方法

(概要)

山口学園教務規約にて、以下の通り記載し、HANDBOOK 掲載によって学生および保護者に伝えている。

第4章 単位認定

第7条（単位認定方法）各科目の単位認定は、以下の基準を全て満たすことで行う。

- (1) 授業出席率が75%（アーティスト美容専門学校美容科実習科目は80%、2022年度生より全科目85%）以上であること。
- (2) 総合評価点が60点以上であること。

第8条（総合評価点）各授業または単元終了時の「素点」及び「平常点」・「課題点」から決定される評価点を総合評価点とする。ただし出席率が規定に満たない場合、総合評価点は0点となる。

第9条（平常点・課題点）平常点と課題点は、授業の取り組み状況から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。

第10条（学期末試験・評価）

各科目の評価は前期・後期それぞれの期末に実施する。評価結果は保護者または保証人に郵送通知する。（アーティスト美容専門学校美容科通信課程を除く）

第11条（成績評価ランク）

算出された総合評価点に基づき、下記のように成績評価ランクを決定する。

総合評価点	ランク	グレードポイント	合否	基準
90点～100点	A	4.0	合格	特に優れている。
80点～89点	B	3.0	合格	優れている。
70点～79点	C	2.0	合格	一定の水準を満たしている。
60点～69点	D	1.0	合格	最低限の理解をしている。
0点～59点	F	0.0	不合格	学習目標に達していない。

2 GPAの適用

GPAとは“Grade Point Average”の略で、学生の成績評価方法の一つであり、本学では学生自身が学習効果を数値化して把握するため、GPAを適用している。履修した科目の評価「A」、「B」、「C」、「D」、「F」に対して、それぞれ「4」、「3」、「2」、「1」、「0」のGP（Grade Point）を与え、取得したポイント（GP×単位数）の合計を履修登録された総単位数で割った、1単位あたりの成績の平均値である。

3 GPAの算出方法

$(4 \times \text{「A」の単位数} + 3 \times \text{「B」の単位数} + 2 \times \text{「C」の単位数} + 1 \times \text{「D」の単位数} + \text{「F」の単位数} \times 0) \div \text{総履修登録単位数}$

※特別単位はGPAの計算に算入されない。

HANDBOOKに掲載し、Webサイトでも公開。

https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/eccart_HANDBOOK.pdf

卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>(卒業の要件) 教育目的に基づいた教育目標・ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを分野ごとに定めており、HANDBOOK 掲載によって学生および保護者に伝えていると同時に、Webサイトでも公開している。 https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/eccart_HANDBOOK.pdf</p> <p>卒業該当学年の各コースに設定された単位のうち、56 単位を修得しているものに対して、学年末に卒業判定会議を開催し、学校長が卒業を認定する。</p> <p>(進級の要件) 進級該当学年の各コースに設定された単位のうち、58 単位を修得しているものに対して、学年末に進級判定会議を開催し、学校長が進級を認定する。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラス担任による指導、出欠確認 ・電話による対応 ・担任面談 ・保護者会

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
23 人 (100%)	0 人 (0%)	23 人 (100%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) KAINO、アイランド、ORESS、アバンスホールディングス、LITA、Lee moca 資生堂美容室、アッシュ、レモンカンパニー、Betty nail 等			
(就職指導内容) ・求人情報提供、・業界／職種研究指導、・学内企業説明会企画、招聘、実施 ・就職活動ノウハウ指導（説明会参加マナー、筆記試験対策、面接試験対策等） ・履歴書添削、・面接指導、・就職保護者会、・未内定者面談 等			
(主な学修成果（資格・検定等）) ・JBMA メイクアップ技術検定 Expart コース 41.7% (5 人/12 人) ・JNEC ネイリスト技能検定 1 級 73.7% (14 人/19 人) ・JNA ジェルネイル技能検定上級 69.6% (16 人/23 人) ・国際アイラッシュ資格 1 級 83.3% (5 人/6 人) ・ネイルサロン衛生管理士 87.5% (21 人/24 人)			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
67 人	4 人	6.0%
(中途退学の主な理由) 学習意欲低下、学力不振 等		

(中退防止・中退者支援のための取組)
 学生面談、保護者会、出欠管理、担任制、学生相談室誘導、学生アンケートの実施等

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化教養専門課程	トータル・メイク学科 ヘアメイクアーティ ストコース	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義 450	演習 2250	実習	実験	実技
3年	昼間	2550 単位時間/単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			2700 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
270 人の内数		169 人	0 人	8 人	11 人	19 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要) 本校では教科主任教員がカリキュラムポリシーに基づいて、授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの授業計画も3月中に教員間で共有され、学生には初回授業で配布説明されている。また、Webサイト上でも全ての必修科目の授業計画が公開されている。URL: https://www.ecc.ac.jp/syllabus/art/</p> <p>【教育目標】 メイクに関する幅広い職種に対応できる知識と技術力を備え、国内外で活躍できる人材を育成する。</p> <p>【ディプロマポリシー】 コース教育目標に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修めかつ、卒業までに指定された資格・検定・科目もしくはこれに準じる基準に合格した学生に対して卒業を認定する。</p> <p>(専門力) ・「美容師国家試験」に準じる学内卒業試験に合格していること。 ・「J BMAメイクアップ検定 Professional」を取得していること。もしくは同等の技術を習得していること。 ・作品撮影(ブック製作/プレゼンテーション)が学内合格水準を満たすこと。 ・インターンシップにおいて学内合格水準を満たすこと。</p> <p>(人間力) ・柔軟な思考力を持ち、多様な意見を受け入れつつ、自身の意見を発信できるようになる。</p> <p>(国際力) ・サロン・美容現場において英会話を使い、グローバルな人材層に接客対応できるようになる。</p> <p>(ICT活用力) ・ICTを活用し、情報処理能力と発信力を高め、SNSを正しく有効に使用できるようになる。</p>

【カリキュラムポリシー】

ディプロマポリシーに掲げる力を習得した美容技術者になるために、以下の意図をもってカリキュラムを構成している。

- ・ブラッシング・ピン止め～夜会巻き・カールアップ・日本髪等のヘアアレンジの基礎を習得する。(1年次)
- ・ヘアメイクに必要な発想力、デザイン力、カラー知識、デッサン力を習得する。(1年次)
- ・照明やカメラについて撮影に関する基礎技術・知識を習得する。(1年次)
- ・英会話の基礎となるフレーズを習得し、異文化を理解できるグローバルマインドを育成する。(1～2年次)
- ・美容師国家資格取得に必要な技術・知識を習得する。(1～3年次)
- ・顔分析、撮影メイク、ブライダルメイク、年代別メイク、ペイントメイク、質感メイク等のメイク応用技術・知識を習得する。(2年次)
- ・基本を踏まえたあらゆるアレンジ技法等のヘアアレンジ応用技術・知識を習得する。(2年次)
- ・着付けの基礎技術・知識を習得する。(2年次)
- ・似合わせメイク、グローバルコミュニケーションメイク、カウンセリングメイク等のメイク高度技術・知識を習得し実践力を習得する。(3年次)
- ・似合わせヘア、クイックチェンジ等のヘア高度技術・知識、シャンプー・ブロー技術、ヘアカラー知識を習得する。(3年次)
- ・就職現場に合わせた高度技術・知識を習得し、現場実践力を習得する。(3年次選択)
- ・スキルアップ技術として、アイラッシュ技術、エアブラシ技術、撮影技術上級を習得する。(3年次選択)
- ・着付けプロレベルとしての応用技術・知識を習得する。(3年次)
- ・美容現場において英会話で接客できる技術を習得する。(3年次)

成績評価の基準・方法

(概要)

山口学園教務規約にて、以下の通り記載し、HANDBOOK 掲載によって学生および保護者に伝えている。

第4章 単位認定

第7条 (単位認定方法) 各科目の単位認定は、以下の基準を全て満たすことで行う。

- (1) 授業出席率が75% (アーティスト美容専門学校美容科実習科目は80%、2022年度生より全科目85%) 以上であること。
- (2) 総合評価点が60点以上であること。

第8条 (総合評価点) 各授業または単元終了時の「素点」及び「平常点」・「課題点」から決定される評価点を総合評価点とする。ただし出席率が規定に満たない場合、総合評価点は0点となる。

第9条 (平常点・課題点) 平常点と課題点は、授業の取り組み状況から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。

第10条 (学期末試験・評価)

各科目の評価は前期・後期それぞれの期末に実施する。評価結果は保護者または保証人に郵送通知する。(アーティスト美容専門学校美容科通信課程を除く)

第11条 (成績評価ランク)

算出された総合評価点に基づき、下記のように成績評価ランクを決定する。

総合評価点	ランク	グレード ポイント	合否	基準
90点～100点	A	4.0	合格	特に優れている。
80点～89点	B	3.0	合格	優れている。

70点～79点	C	2.0	合格	一定の水準を満たしている。
60点～69点	D	1.0	合格	最低限の理解をしている。
0点～59点	F	0.0	不合格	学習目標に達していない。

2 GPAの適用

GPAとは“Grade Point Average”の略で、学生の成績評価方法の一つであり、本学では学生自身が学習効果を数値化して把握するため、GPAを適用している。履修した科目の評価「A」、「B」、「C」、「D」、「F」に対して、それぞれ「4」、「3」、「2」、「1」、「0」のGP (Grade Point) を与え、取得したポイント (GP×単位数) の合計を履修登録された総単位数で割った、1単位あたりの成績の平均値である。

3 GPAの算出方法

$(4 \times \text{「A」の単位数} + 3 \times \text{「B」の単位数} + 3 \times \text{「C」の単位数} + 1 \times \text{「D」の単位数} + \text{「F」の単位数} \times 0) \div \text{総履修登録単位数}$

※特別単位はGPAの計算に算入されない。

HANDBOOKに掲載し、Webサイトでも公開。

https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/eccart_HANDBOOK.pdf

卒業・進級の認定基準

(概要)

(卒業の要件) 教育目的に基づいた教育目標・ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを分野ごとに定めており、HANDBOOK掲載によって学生および保護者に伝えていると同時に、Webサイトでも公開している。

https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/eccart_HANDBOOK.pdf

卒業該当学年の各コースに設定された単位のうち、54単位を修得しているものに対して、学年末に卒業判定会議を開催し、学校長が卒業を認定する。

(進級の要件) 進級該当学年の各コースに設定された単位のうち、58単位を修得しているものに対して、学年末に進級判定会議を開催し、学校長が進級を認定する。

学修支援等

(概要)

- ・クラス担任による指導、出欠確認
- ・電話による対応 ・担任面談
- ・保護者会

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
61人 (100%)	0人 (0%)	59人 (96.7%)	2人 (3.3%)

(主な就職、業界等)

INVINCIBLE、エターナル、アイランド、Will、アトメイキ、LIM、Lila、デコルテレモンカンパニー、アンテリーベ、クラウドディア、ファーストステージ 等

(就職指導内容)

- ・求人情報提供、
- ・業界／職種研究指導、
- ・学内企業説明会企画・招聘・実施
- ・就職活動ノウハウ指導 (説明会参加マナー、筆記試験対策、面接試験対策など)

<ul style="list-style-type: none"> ・履歴書添削、・面接指導、・就職保護者会、・未内定者面談 ・メイクアップアーティストアシスタント対策個別指導 など
(主な学修成果(資格・検定等)) <ul style="list-style-type: none"> ・JBMAメイクアップ技術検定 Expert コース 88.5% (54人/61人) ・国際アイラッシュ資格2級 95.1% (41人/39人)
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
181人	10人	5.5%
(中途退学の主な理由) 体調不良、進路変更、学習意欲低下 等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生面談、保護者会、出欠管理、担任制、学生相談室誘導、学生アンケートの実施等		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化教養専門課程	アーティスト学科 ビューティアドバイザー コース	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義 750	演習 1050	実習	実験	実技
2年	昼間	1710 単位時間/単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	
			1800 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
284人の内数		76人	1人	4人	9人	13人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 本校では教科主任教員がカリキュラムポリシーに基づいて、授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの授業計画も3月中に教員間で共有され、学生には初回授業で配布説明されている。また、Webサイト上でも全ての必修科目の授業計画が公開されている。URL: https://www.ecc.ac.jp/syllabus/art/
【教育目標】 化粧品知識・販売技術(英語を含む)を修得すると共に、コミュニケーション能力(マナー、度胸)に優れた一流のビューティアドバイザーを育成する。
【ディプロマポリシー】 コース教育目標に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修めかつ、卒業までに指定された資格・検定・科目もしくはこれに準じる基準に合格した学生に対して卒業を認定する。

<p>(専門力/人間力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ T B A (メイク技術・接客技術・筆記) 試験において学内合格水準を満たすこと。 ・ 「J BMAメイクアップ検定 Expert コース」を取得していること。もしくは同等の技術を習得していること。 ・ 「化粧品検定2級」を取得していること。もしくは同等の知識を習得していること。 <p>(国際力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 化粧品販売現場で使用する英会話定型フレーズを用いて接客できるようになる。 <p>(人間力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 柔軟な思考力を持ち、多様な意見を受け入れつつ、自身の意見を発信できるようになる。 ・ 一般常識テストにおいて学内合格水準を満たすこと。 <p>(ICT 活用力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ICT を活用し、情報処理能力と発信力を高め、SNS を正しく有効に使用できるようになる。 <p>【カリキュラムポリシー】</p> <p>ディプロマポリシーに掲げる力を習得したビューティアドバイザーになるために、以下の意図をもってカリキュラムを構成している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ クレンジングからフルメイクまでのメイクアップ基礎技術・知識を習得する。(1年次) ・ イメージメイク・年代別メイクの基礎技術・知識を習得する。(1年次) ・ 綺麗な立ち居振る舞い、接客用語等の接客に関わる基礎技術・知識を修得する。(1年次) ・ 色彩学、パーソナルカラー等色彩に関わる基礎技術・知識を修得する。(1年次) ・ 英会話の基礎となるフレーズを習得し、異文化を理解できるグローバルマインドを育成する。(1年次) ・ 接客を交えたメイク技法、ファッションなどの流行の要素を取り入れたボリューム感・スケール感のあるメイクアップ技法等のメイク応用技術・知識を習得する。(2年次) ・ コスメ販売の技術・知識をケーススタディにより習得する。(2年次) ・ 実践的なメイク技術・接客技術を習得し、現場実践力を習得する(2年次) ・ プレゼンテーションに関わる技術・知識を習得する。(2年次) ・ グローバル社会に対応すべく、美容部員の業界で使用する英会話定型フレーズを用いて接客できる技術を習得する。(2年次)
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>(概要)</p> <p>山口学園教務規約にて、以下の通り記載し、HANDBOOK 掲載によって学生および保護者に伝えている。</p> <p>第4章 単位認定</p> <p>第7条 (単位認定方法) 各科目の単位認定は、以下の基準を全て満たすことで行う。</p> <p>(1) 授業出席率が75% (アーティスト美容専門学校美容科実習科目は80%、2022年度生より全科目85%) 以上であること。</p> <p>(2) 総合評価点が60点以上であること。</p> <p>第8条 (総合評価点) 各授業または単元終了時の「素点」及び「平常点」・「課題点」から決定される評価点を総合評価点とする。ただし出席率が規定に満たない場合、総合評価点は0点となる。</p> <p>第9条 (平常点・課題点) 平常点と課題点は、授業の取り組み状況から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。</p>

第10条（学期末試験・評価）

各科目の評価は前期・後期それぞれの期末に実施する。評価結果は保護者または保証人に郵送通知する。（アーティスト美容専門学校美容科通信課程を除く）

第11条（成績評価ランク）

算出された総合評価点に基づき、下記のように成績評価ランクを決定する。

総合評価点	ランク	グレード ポイント	合否	基準
90点～100点	A	4.0	合格	特に優れている。
80点～89点	B	3.0	合格	優れている。
70点～79点	C	2.0	合格	一定の水準を満たしている。
60点～69点	D	1.0	合格	最低限の理解をしている。
0点～59点	F	0.0	不合格	学習目標に達していない。

2 GPAの適用

GPAとは“Grade Point Average”の略で、学生の成績評価方法の一つであり、本学では学生自身が学習効果を数値化して把握するため、GPAを適用している。履修した科目の評価「A」、「B」、「C」、「D」、「F」に対して、それぞれ「4」、「3」、「2」、「1」、「0」のGP（Grade Point）を与え、取得したポイント（GP×単位数）の合計を履修登録された総単位数で割った、1単位あたりの成績の平均値である。

3 GPAの算出方法

$(4 \times \text{「A」の単位数} + 3 \times \text{「B」の単位数} + 3 \times \text{「C」の単位数} + 1 \times \text{「D」の単位数} + \text{「F」の単位数} \times 0) \div \text{総履修登録単位数}$

※特別単位はGPAの計算に算入されない。

HANDBOOKに掲載し、Webサイトでも公開。

https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/eccart_HANDBOOK.pdf

卒業・進級の認定基準

（概要）

教育目的に基づいた教育目標・ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを分野ごとに定めており、HANDBOOK掲載によって学生および保護者に伝えていると同時に、Webサイトでも公開している。

https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/eccart_HANDBOOK.pdf

卒業該当学年の各コースに設定された単位のうち、56単位を修得しているものに対して、学年末に卒業判定会議を開催し、学校長が卒業を認定する。

（進級の要件） 進級該当学年の各コースに設定された単位のうち、58単位を修得しているものに対して、学年末に進級判定会議を開催し、学校長が進級を認定する。

学修支援等

（概要）

- ・クラス担任による指導、出欠確認
- ・電話による対応 ・担任面談
- ・保護者会

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
31人 (100%)	0人 (0%)	31人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) Dior、シャネル、イブサ、ゲラン、アルビオン、エキップ、ランコム NARS、 シュウウエムラ、イブサンローラン、コーセー 等			
(就職指導内容) ・ 求人情報提供、・ 業界／職種研究指導、・ 学内企業説明会企画、招聘、実施 ・ 就職活動ノウハウ指導（説明会参加マナー、筆記試験対策、面接試験対策等） ・ 履歴書添削、・ 面接指導、・ 就職保護者会、・ 未内定者面談 等			
(主な学修成果（資格・検定等）) ・ JBMA メイクアップ技術検定 Basic コース 97.7% (42人/43人) ・ JBMA メイクアップ技術検定 Professional コース 100% (32人/32人) ・ JBMA メイクアップ技術検定 Expert コース 68.8% (22人/32人) ・ 化粧品検定 2級 90.7% (39人/43人)			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
86人	12人	14.0%
(中途退学の主な理由) 進路変更、学習意欲低下、体調不良、人間関係、経済的理由 等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生面談、保護者会、出欠管理、担任制、学生相談室誘導、学生アンケートの実施等		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	文化教養専門課程	アーティスト学科 ネイリストコース	○	—			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義 300	演習 1500	実習	実験	実技
2年	昼間	1710 単位時間／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			1800 単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
284人の内数	41人	2人	4人	10人	14人		

<p>カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）</p>
<p>（概要） 本校では教科主任教員がカリキュラムポリシーに基づいて、授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの授業計画も3月中に教員間で共有され、学生には初回授業で配布説明されている。また、Webサイト上でも全ての必修科目の授業計画が公開されている。URL: https://www.ecc.ac.jp/syllabus/art/</p> <p>【教育目標】 ネイルの幅広い知識と技術を習得しネイル関連検定を取得すると共に、あらゆる年齢層の顧客ともコミュニケーション・接客ができる素直で元気ある人材を育成する。</p> <p>【ディプロマポリシー】 コース教育目標に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修めかつ、卒業までに指定された検定試験・科目もしくはこれに準じる基準に合格した学生に対して卒業を認定する。</p> <p>（専門力）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネイル系検定「JNEC ネイリスト技能検定1級」を取得している。もしくは同等の技術を習得していること。 ・ネイル系検定「JNA ジェルネイル検定上級」を取得している。もしくは同等の技術を習得していること。 ・ネイル系検定「JNA フットケア理論検定」を取得している。もしくは同等の技術を習得していること。 ・ネイル系資格「衛生管理士」を取得している。もしくは同等の技術を習得していること。 <p>（国際力）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネイルサロン現場で使用する英会話定型フレーズを用いて接客できるようになる。 <p>（人間力）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「サロン実習」での接客技術が合格水準を満たしていること。 <p>（ICT活用力）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用し、情報処理能力と発信力を高め、SNSを正しく有効に使用できるようになる。 <p>【カリキュラムポリシー】 ディプロマポリシーに掲げる力を習得したネイリストになるために、以下の意図をもってカリキュラムを構成している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネイル理論を修得し、ネイル技術の基礎となるネイルケア・カラーリング・チップ&ラップ技術を習得し、ネイリスト技能検定3級・2級の取得を目指す。（1年次） ・ジェルネイルの基礎を修得し、ジェルネイル検定初級を取得する。（1年次） ・2年次でのサロンワーク実習に向けて、サロンで必要となる実践技術、知識を習得する。（1年次） ・英会話の基礎となるフレーズを習得し、異文化を理解できるグローバルマインドを育成する。（1年次） ・フレンチスカルプチュアの技術修得し、ネイリスト技能検定1級を目指す。（2年次） ・ジェルネイルの上級技術を修得し、ジェルネイル検定上級を取得する。（2年次） ・学内サロンにて実践的なネイル技術・サロンワーク・接客技術を修得する。（2年次） ・グローバル社会に対応すべく、ネイルサロンで使用する英会話定型フレーズを用いて接客できる技術を習得する。（2年次）
<p>成績評価の基準・方法</p>
<p>（概要） 山口学園教務規約にて、以下の通り記載し、HANDBOOK掲載によって学生および保護者に伝えている。</p> <p>第4章 単位認定</p>

第7条（単位認定方法）各科目の単位認定は、以下の基準を全て満たすことで行う。

- (1) 授業出席率が75%（アーティスト美容専門学校美容科実習科目は80%、2022年度生より全科目85%）以上であること。
- (2) 総合評価点が60点以上であること。

第8条（総合評価点）各授業または単元終了時の「素点」及び「平常点」・「課題点」から決定される評価点を総合評価点とする。ただし出席率が規定に満たない場合、総合評価点は0点となる。

第9条（平常点・課題点）平常点と課題点は、授業の取り組み状況から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。

第10条（学期末試験・評価）

各科目の評価は前期・後期それぞれの期末に実施する。評価結果は保護者または保証人に郵送通知する。（アーティスト美容専門学校美容科通信課程を除く）

第11条（成績評価ランク）

算出された総合評価点に基づき、下記のように成績評価ランクを決定する。

総合評価点	ランク	グレードポイント	可否	基準
90点～100点	A	4.0	合格	特に優れている。
80点～89点	B	3.0	合格	優れている。
70点～79点	C	2.0	合格	一定の水準を満たしている。
60点～69点	D	1.0	合格	最低限の理解をしている。
0点～59点	F	0.0	不合格	学習目標に達していない。

2 GPAの適用

GPAとは“Grade Point Average”の略で、学生の成績評価方法の一つであり、本学では学生自身が学習効果を数値化して把握するため、GPAを適用している。履修した科目の評価「A」、「B」、「C」、「D」、「F」に対して、それぞれ「4」、「3」、「2」、「1」、「0」のGP（Grade Point）を与え、取得したポイント（GP×単位数）の合計を履修登録された総単位数で割った、1単位あたりの成績の平均値である。

3 GPAの算出方法

$(4 \times \text{「A」の単位数} + 3 \times \text{「B」の単位数} + 2 \times \text{「C」の単位数} + 1 \times \text{「D」の単位数} + 0 \times \text{「F」の単位数}) \div \text{総履修登録単位数}$

※特別単位はGPAの計算に算入されない。

HANDBOOKに掲載し、Webサイトでも公開。

https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/eccart_HANDBOOK.pdf

卒業・進級の認定基準

（概要）

教育目的に基づいた教育目標・ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを分野ごとに定めており、HANDBOOK掲載によって学生および保護者に伝えていると同時に、Webサイトでも公開している。

https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/eccart_HANDBOOK.pdf

卒業該当学年の各コースに設定された単位のうち、56単位を修得しているものに対して、学年末に卒業判定会議を開催し、学校長が卒業を認定する。

(進級の要件) 進級該当学年の各コースに設定された単位のうち、58 単位を修得しているものに対して、学年末に進級判定会議を開催し、学校長が進級を認定する。

学修支援等
(概要)
<ul style="list-style-type: none"> ・クラス担任による指導、出欠確認 ・電話による対応 ・担任面談 ・保護者会

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
13 人 (100%)	0 人 (0%)	12 人 (92.3%)	1 人 (7.7%)
(主な就職、業界等)			
MIRAI、ウカ、サンミーゴ、Lee moca、Ray 心斎橋、ロココ&モカ、Luna、ナイスネイル Mail AVANCE、Angelica Michelle 等			
(就職指導内容)			
<ul style="list-style-type: none"> ・求人情報提供、・業界／職種研究指導、・学内企業説明会企画・招聘・実施 ・就職活動ノウハウ指導 (説明会参加マナー、筆記試験対策、面接試験対策など) ・履歴書添削、・面接指導、・就職保護者会、・未内定者面談 等 			
(主な学修成果 (資格・検定等))			
<ul style="list-style-type: none"> ・JNEC ネイリスト技能検定 1 級 69.2% (9 人/13 人) ・JNEC ネイリスト技能検定 2 級 72.7% (8 人/11 人) ・JNA ジェルネイル技能検定上級 45.5% (5 人/11 人) ・ネイルサロン衛生管理士 85.7% (12 人/14 人) ・JNA フットケア理論検定 78.6% (11 人/14 人) 			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
29 人	5 人	17.2%
(中途退学の主な理由)		
体調不良、進路変更 等		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
学生面談、保護者会、出欠管理、担任制、学生相談室誘導、学生アンケートの実施等		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化教養専門課程	プロ専科 トップスタイリスト コース	—	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義 90	演習 810	実習	実験	実技
1年	昼間	856 単位時間/単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			900 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		13人	0人	2人	3人	5人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
<p>（概要）</p> <p>本校では教科主任教員がカリキュラムポリシーに基づいて、授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの授業計画も3月中に教員間で共有され、学生には初回授業で配布説明されている。また、Webサイト上でも全ての必修科目の授業計画が公開されている。URL: https://www.ecc.ac.jp/syllabus/art/</p> <p>【教育目標】</p> <p>美容師資格を保有した上で、最短スタイリストデビューを可能とする即戦力技術を持つ人材を育成する。</p> <p>【ディプロマポリシー】</p> <p>コース教育目標に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修めかつ、卒業までに指定された資格・検定・科目もしくはこれに準じる基準に合格した学生に対して卒業を認定する。</p> <p>（専門力/人間力）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内美容サロンアンバリールでカット/カラー/シャンプーの実務経験を経ること。 ・City&Guilds 国際美容技能試験 Module3 に合格すること。 <p>（国際力）・美容サロン現場において英会話で接客できるようになること。</p> <p>（ICT 活用力）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT を活用し、情報処理能力と発信力を高め、SNS を正しく有効に使用できるようになること。 <p>【カリキュラムポリシー】</p> <p>ディプロマポリシーに掲げる力を習得した美容師になるために、以下の意図をもってカリキュラムを構成している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内美容サロンアンバリールで多数のお客様にカット/カラー/シャンプーの施術を行う。 ・世界基準の美容サロンワーク技術を習得する。 ・カラー薬剤/毛髪・皮膚科学の応用知識を習得する。 ・サロン経営に関する知識・技術を習得する。 ・インターンシップにより外部美容サロンでのアシスタント経験を積む。 ・美容サロン現場において英会話で接客できる技術を習得する。 <p>成績評価の基準・方法</p>	

(概要)

山口学園教務規約にて、以下の通り記載し、HANDBOOK 掲載によって学生および保護者に伝えている。

第4章 単位認定

第7条 (単位認定方法) 各科目の単位認定は、以下の基準を全て満たすことで行う。

- (1) 授業出席率が75% (アーティスト美容専門学校美容科実習科目は80%、2022年度生より全科目85%) 以上であること。
- (2) 総合評価点が60点以上であること。

第8条 (総合評価点) 各授業または単元終了時の「素点」及び「平常点」・「課題点」から決定される評価点を総合評価点とする。ただし出席率が規定に満たない場合、総合評価点は0点となる。

第9条 (平常点・課題点) 平常点と課題点は、授業の取り組み状況から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。

第10条 (学期末試験・評価)

各科目の評価は前期・後期それぞれの期末に実施する。評価結果は保護者または保証人に郵送通知する。(アーティスト美容専門学校美容科通信課程を除く)

第11条 (成績評価ランク)

算出された総合評価点に基づき、下記のように成績評価ランクを決定する。

総合評価点	ランク	グレード ポイント	合否	基準
90点～100点	A	4.0	合格	特に優れている。
80点～89点	B	3.0	合格	優れている。
70点～79点	C	2.0	合格	一定の水準を満たしている。
60点～69点	D	1.0	合格	最低限の理解をしている。
0点～59点	F	0.0	不合格	学習目標に達していない。

2 GPA の適用

GPA とは“Grade Point Average”の略で、学生の成績評価方法の一つであり、本学では学生自身が学習効果を数値化して把握するため、GPA を適用している。履修した科目の評価「A」, 「B」, 「C」, 「D」, 「F」に対して、それぞれ「4」, 「3」, 「2」, 「1」, 「0」の GP (Grade Point) を与え、取得したポイント (GP×単位数) の合計を履修登録された総単位数で割った、1 単位あたりの成績の平均値である。

3 GPA の算出方法

$(4 \times \text{「A」の単位数} + 3 \times \text{「B」の単位数} + 2 \times \text{「C」の単位数} + 1 \times \text{「D」の単位数} + \text{「F」の単位数} \times 0) \div \text{総履修登録単位数}$

※特別単位はGPAの計算に算入されない。

HANDBOOK に掲載し、Web サイトでも公開。

https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/eccart_HANDBOOK.pdf

卒業・進級の認定基準

<p>(概要)</p> <p>教育目的に基づいた教育目標・ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを分野ごとに定めており、HANDBOOK 掲載によって学生および保護者に伝えていると同時に、Web サイトでも公開している。</p> <p>https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/eccart_HANDBOOK.pdf</p> <p>卒業該当学年の各コースに設定された単位のうち、56 単位を修得しているものに対して、学年末に卒業判定会議を開催し、学校長が卒業を認定する。</p> <p>(進級の要件) 進級該当学年の各コースに設定された単位のうち、58 単位を修得しているものに対して、学年末に進級判定会議を開催し、学校長が進級を認定する。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラス担任による指導、出欠確認 ・電話による対応 ・担任面談 ・保護者会

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
16 人 (100%)	0 人 (0%)	16 人 (100%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) ハーベン、SOL、i . 、 I N V I N C I B L E、hair' s berry、CINQ、HACO+、Vers、luve heart' s And Be、BELO OSAKA 等			
(就職指導内容) ・求人情報提供、・業界／職種研究指導、・学内企業説明会企画・招聘・実施 ・就職活動ノウハウ指導 (説明会参加マナー、筆記試験対策、面接試験対策など)、・履歴書添削、・面接指導、・就職保護者会、・未内定者面談等			
(主な学修成果 (資格・検定等)) ・CITY&GUILDS Hairdressing Module3 75% (12 名/16 名)			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
17 人	1 人	5.9%
(中途退学の主な理由) 体調不良		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生面談、保護者会、出欠管理、担任制、学生相談室誘導、学生アンケートの実施等		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
文化・教養	文化教養専門課程	トータルビューティ基礎学科	—	—

修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義 240	演習 660	実習	実験	実技
1年	昼間	856 単位時間/単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			900 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
24人	12人	0人	2人	4人	6人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
<p>(概要)</p> <p>本校では教科主任教員がカリキュラムポリシーに基づいて、授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの授業計画も3月中に教員間で共有され、学生には初回授業で配布説明されている。また、Webサイト上でも全ての必修科目の授業計画が公開されている。URL: https://www.ecc.ac.jp/syllabus/</p> <p>【教育目標】 ネイル・メイク・ヘアなどのトータルビューティに関する知識や技術を幅広く学び、2年目以降の進学先コースの選択につなげる。ならびに、接客知識、英語もしくは韓国語でのコミュニケーション力の基礎を身につけた人材を育成する。</p> <p>【ディプロマポリシー】 コース教育目標に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修めかつ、卒業までに指定された資格・検定もしくはこれに準じる基準に合格した学生に対して卒業を認定する。</p> <p>(専門力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「サービス接客検定3級」を取得していること、もしくは同等の技術を習得していること。 ・進学先コースの業界特性や身につけるべき専門力を理解した上で、進学先の選択が出来ること。 ・進学先コースに拠らず、美容業界に携わる者として外部に情報発信が出来ること。 <p>(人間力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・柔軟な思考力を持ち、多様な意見を受け入れつつ、自身の意見を発信できるようになる。 <p>(国際力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身が選択した言語の基礎を習得し、グローバルな人材層に接客対応するための基礎を身につける。 <p>(ICT活用力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用し、情報処理能力と発信力を高め、SNSを正しく有効に使用できるようになる。 <p>【カリキュラムポリシー】 ディプロマポリシーに掲げる力を習得するために、以下の意図をもってカリキュラムを構成している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美容師になるために必要な知識を理解する。(1年次) ・ビューティアドバイザーになるために必要な知識を理解する。(1年次) ・ネイリストになるために必要な知識を理解する。(1年次) ・メイクの基礎技術・知識を習得する。(1年次) ・色彩、アート、ファッションの基礎技術・知識を習得する。(1年次) 	

- ・セルフプロデュース、プレゼンテーションの基礎技術・知識を習得する。(1年次)
- ・英語か韓国語の基礎となるフレーズを習得し、異文化を理解できるグローバルマインドを育成する。(1年次)
- ・撮影技術、データ加工技術の基礎を習得する。(1年次)

成績評価の基準・方法

(概要)

山口学園教務規約にて、以下の通り記載し、HANDBOOK 掲載によって学生および保護者に伝えている。

第4章 単位認定

第7条 (単位認定方法) 各科目の単位認定は、以下の基準を全て満たすことで行う。

- (1) 授業出席率が75% (アーティスト美容専門学校美容科実習科目は80%、2022年度生より全科目85%) 以上であること。
- (2) 総合評価点が60点以上であること。

第8条 (総合評価点) 各授業または単元終了時の「素点」及び「平常点」・「課題点」から決定される評価点を総合評価点とする。ただし出席率が規定に満たない場合、総合評価点は0点となる。

第9条 (平常点・課題点) 平常点と課題点は、授業の取り組み状況から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。

第10条 (学期末試験・評価)

各科目の評価は前期・後期それぞれの期末に実施する。評価結果は保護者または保証人に郵送通知する。(アーティスト美容専門学校美容科通信課程を除く)

第11条 (成績評価ランク)

算出された総合評価点に基づき、下記のように成績評価ランクを決定する。

総合評価点	ランク	グレード ポイント	合否	基準
90点～100点	A	4.0	合格	特に優れている。
80点～89点	B	3.0	合格	優れている。
70点～79点	C	2.0	合格	一定の水準を満たしている。
60点～69点	D	1.0	合格	最低限の理解をしている。
0点～59点	F	0.0	不合格	学習目標に達していない。

2 GPA の適用

GPA とは“Grade Point Average”の略で、学生の成績評価方法の一つであり、本学では学生自身が学習効果を数値化して把握するため、GPA を適用している。履修した科目の評価「A」, 「B」, 「C」, 「D」, 「F」に対して、それぞれ「4」, 「3」, 「2」, 「1」, 「0」のGP (Grade Point) を与え、取得したポイント (GP×単位数) の合計を履修登録された総単位数で割った、1単位あたりの成績の平均値である。

3 GPA の算出方法

$(4 \times \text{「A」の単位数} + 3 \times \text{「B」の単位数} + 3 \times \text{「C」の単位数} + 1 \times \text{「D」の単位数} + \text{「F」の単位数} \times 0) \div \text{総履修登録単位数}$

※特別単位はGPAの計算に算入されない。

HANDBOOK に掲載し、Web サイトでも公開。

https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/eccart_HANDBOOK.pdf

卒業・進級の認定基準
(概要) 教育目的に基づいた教育目標・ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを分野ごとに定めており、HANDBOOK 掲載によって学生および保護者に伝えていると同時に、Web サイトでも公開している。 https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/eccart_HANDBOOK.pdf
卒業該当学年の各コースに設定された単位のうち、56 単位を修得しているものに対して、学年末に卒業判定会議を開催し、学校長が卒業を認定する。 (進級の要件) 進級該当学年の各コースに設定された単位のうち、58 単位を修得しているものに対して、学年末に進級判定会議を開催し、学校長が進級を認定する。
学修支援等
(概要) ・クラス担任による指導、出欠確認 ・電話による対応 ・担任面談 ・保護者会

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
13 人 (100%)	13 人 (100%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容) 進路個別ガイダンス			
(主な学修成果 (資格・検定等)) ・サービス接遇検定 3 級 78.6% (11 名/14 名)			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
14 人	1 人	7.1%
(中途退学の主な理由) 学習意欲低下		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生面談、保護者会、出欠管理、担任制、学生相談室誘導、学生アンケートの実施等		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
衛生		衛生専門課程	美容科	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義 786	演習 1644	実習	実験	実技
2年	昼間	2010 単位時間/単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			2430 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
180人		74人	3人	8人	10人	18人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
<p>（概要）</p> <p>本校では教科主任教員がカリキュラムポリシーに基づいて、授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの授業計画も3月中に教員間で共有され、学生には初回授業で配布説明されている。また、Webサイト上でも全ての必修科目の授業計画が公開されている。URL: https://www.ecc.ac.jp/syllabus/art/</p> <p>【教育目標】</p> <p>美容師国家資格を取得する知識・技術を修得すると共に、美容室でのサロンワーク・接客技術を理解した自ら動ける・考えられる能動的な人材を育成する。</p> <p>【ディプロマポリシー】</p> <p>コース教育目標に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修めかつ、卒業までに指定された資格・検定・科目 もしくはこれに準じる基準に合格した学生に対して卒業を認定する。</p> <p>（専門力）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「美容師国家試験」に準じる学内卒業試験に合格していること。 ・薬剤知識/毛髪科学知識/カット&カラー技術を保有し、実践的な技術を習得していること。 ・ヘアメイク/撮影技術修得に準拠した作品を制作すること。 <p>（専門力/人間力）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・City&Guilds Hairdressing for Pre-Assistants に合格すること。 <p>（国際力）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美容サロン現場で使用する英会話定型フレーズを用いて接客できるようになること。 <p>（ICT 活用力）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT を活用し、情報処理能力と発信力を高め、SNS を正しく有効に使用できるようになること。 <p>【カリキュラムポリシー】</p> <p>ディプロマポリシーに掲げる力を習得した美容師になるために、以下の意図をもってカリキュラムを構成している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美容師国家試験の実技試験に準拠した基礎技術を習得 する。(1 年次) ・英会話の基礎となるフレーズを習得し、異文化を理解できるグローバルマインドを育成する。(1 年次) ・薬剤・化粧品知識/毛髪・皮膚科学知識/カラー知識を習得する。(1 年次) ・美容師国家試験の実技試験に合格できる技術を習得 する。(2 年次) ・美容師国家試験の学科試験に合格できる知識を習得 する。(2 年次) 	

- ・実践的なカット&カラーの技術を習得する。(2年次)
- ・実践的なヘアメイク/撮影技術を習得する。(2年次)
- ・学内サロンにて実践的な美容サロンワーク・アシスタント業務・接客技術を習得する。(2年次)
- ・グローバル社会に対応すべく、美容サロンで使用する英会話定型フレーズを用いて接客できる技術を習得する。(2年次)

成績評価の基準・方法

(概要)

山口学園教務規約にて、以下の通り記載し、HANDBOOK 掲載によって学生および保護者に伝えている。

第4章 単位認定

第7条 (単位認定方法) 各科目の単位認定は、以下の基準を全て満たすことで行う。

- (1) 授業出席率が75% (アーティスト美容専門学校美容科実習科目は80%、2022年度生より全科目85%) 以上であること。
- (2) 総合評価点が60点以上であること。

第8条 (総合評価点) 各授業または単元終了時の「素点」及び「平常点」・「課題点」から決定される評価点を総合評価点とする。ただし出席率が規定に満たない場合、総合評価点は0点となる。

第9条 (平常点・課題点) 平常点と課題点は、授業の取り組み状況から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。

第10条 (学期末試験・評価)

各科目の評価は前期・後期それぞれの期末に実施する。評価結果は保護者または保証人に郵送通知する。(アーティスト美容専門学校美容科通信課程を除く)

第11条 (成績評価ランク)

算出された総合評価点に基づき、下記のように成績評価ランクを決定する。

総合評価点	ランク	グレードポイント	合否	基準
90点～100点	A	4.0	合格	特に優れている。
80点～89点	B	3.0	合格	優れている。
70点～79点	C	2.0	合格	一定の水準を満たしている。
60点～69点	D	1.0	合格	最低限の理解をしている。
0点～59点	F	0.0	不合格	学習目標に達していない。

2 GPAの適用

GPAとは“Grade Point Average”の略で、学生の成績評価方法の一つであり、本学では学生自身が学習効果を数値化して把握するため、GPAを適用している。履修した科目の評価「A」、「B」、「C」、「D」、「F」に対して、それぞれ「4」、「3」、「2」、「1」、「0」のGP (Grade Point) を与え、取得したポイント (GP×単位数) の合計を履修登録された総単位数で割った、1単位あたりの成績の平均値である。

3 GPAの算出方法

(4×「A」の単位数+3×「B」の単位数+3×「C」の単位数+1×「D」の単位数+「F」の単位数×0) ÷ 総履修登録単位数

※特別単位はGPAの計算に算入されない。

HANDBOOK に掲載し、Web サイトでも公開。 https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/eccart_HANDBOOK.pdf
卒業・進級の認定基準 (概要) 教育目的に基づいた教育目標・ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを分野ごとに定めており、HANDBOOK 掲載によって学生および保護者に伝えていると同時に、Web サイトでも公開している。 https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/eccart_HANDBOOK.pdf
卒業該当学年の各コースに設定された単位のうち、56 単位を修得しているものに対して、学年末に卒業判定会議を開催し、学校長が卒業を認定する。 (進級の要件) 進級該当学年の各コースに設定された単位のうち、58 単位を修得しているものに対して、学年末に進級判定会議を開催し、学校長が進級を認定する。
学修支援等 (概要) ・クラス担任による指導、出欠確認 ・電話による対応 ・担任面談 ・保護者会

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
23 人 (100%)	13 人 (56.5%)	10 人 (43.5%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) AVANCE、grace by afloat、NOISM、ヘアメイクウィル、isi、ECO0 田谷、CLOUD 9 等			
(就職指導内容) ・求人情報提供、・業界／職種研究指導、・学内企業説明会企画・招聘・実施 ・就職活動ノウハウ指導 (説明会参加マナー、筆記試験対策、面接試験対策など)、 ・履歴書添削、・面接指導、・就職保護者会、・未内定者面談等			
(主な学修成果 (資格・検定等)) 美容師国家試験 87% (20 名/23 名)			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
60 人	4 人	6.7%
(中途退学の主な理由) 体調不良、学習意欲低下		

(中退防止・中退者支援のための取組) ・クラス担任による指導、出欠確認 ・電話による対応 ・担任面談 ・保護者会

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
アーティスト学科	80,000 円	920,000 円	220,000 円	その他は「施設設備費」
トータル・メイク学科	80,000 円	920,000 円	220,000 円	その他は「施設設備費」
プロ専科	80,000 円	920,000 円	220,000 円	その他は「施設設備費」
美容科	80,000 円	920,000 円	220,000 円	その他は「施設設備費」
トータルビューティ基礎学科	80,000 円	920,000 円	220,000 円	その他は「施設設備費」
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法	
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/art-self.pdf	
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)	
<p>本校では「学校評価実施規定」に則り、年間 2 回学校関係者評価委員会を開催している。当委員会では、下記の評価項目に関して各年度に自己評価を実施し、状況確認と課題抽出、対策案の策定等を実施する。この結果を受けて、半期以内を目処に自己評価委員会、教職員会議、コースデザイン会議等で改善策を図り、次の学校関係者評価委員会で状況を報告する。2024 年度は 8 月 29 日、2 月 28 日に開催し、自己評価報告書に基づき確認、討議、改善策の構築等実施している。2024 年度改善された項目として、学生の学修成果の評価方法、地域連携を含めた課外活動が挙げられる。卒業生との連携、学繻子詠歌の保護者への告知方法に関して提案をいただいている。なお、2023 年度の「自己評価報告書」ならびに 2024 年度「学校関係者評価委員会報告書」を学園ホームページ上に公開している。</p>	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・理念・目的・育成人材像は定められているか ・学校における職業教育の特色は何か ・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか ・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか

<p>(2) 学校運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか ・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ・人事、給与に関する規定等は整備されているか ・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか
<p>(3) 教育活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。 ・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員の能力開発のための研修等が行われているか
<p>(4) 学修成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。
<p>(5) 学生支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか

	<ul style="list-style-type: none"> ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は、適正に行われているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・学納金は妥当なものとなっているか
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか ・自己評価結果を公開しているか
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか
(11) 国際交流	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか ・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか ・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか ・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか

学校関係者評価の委員

所属	任期	種別
株式会社 thsd-5	2年 2025. 4. 1～2027. 3. 31 (新任)	分野企業
株式会社ガモウ関西	2年 2023. 4. 1～2027. 3. 31	分野企業

	(任意更新)	
一般社団法人ジャパン・ビューティーマネジメント協会	2年 2021.4.1～2027.3.31 (任意更新)	分野協会
株式会社クラフト・ワークス	2021.4.1～2025.3.31 (期間終了)	分野企業
高等学校講師	2年 2020.4.1～2027.3.31 (任意更新)	高校等関係者
卒業生	2023.4.1～2025.3.31 (期間終了)	卒業生
卒業生	2年 2025.4.1～2027.3.31 (新任)	卒業生
済美地域社会福祉協議会	2年 2021.4.1～2027.3.31 (任意更新)	地域関係者
保護者	2年 2025.4.1～2026.3.31 (新任)	保護者
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/art-school-202409.pdf https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/art-school-202503.pdf		
第三者による学校評価 (任意記載事項) https://art.ecc.ac.jp/aboutecc/publish/pdf/art_avaluation.pdf (2022年度受審)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://art.ecc.ac.jp/
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	H127310001799
学校名 (〇〇大学 等)	ECCアーティスト美容専門学校
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人 山口学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		78人 (0) 人	71人 (0) 人	78 (0) 人
内 訳	第Ⅰ区分	47人	40人	
	(うち多子世帯)	(0人)	(0人)	
	第Ⅱ区分	18人	23人	
	(うち多子世帯)	(0人)	(0人)	
	第Ⅲ区分	12人	-	
	(うち多子世帯)	(0人)	(0人)	
	第Ⅳ区分 (理工農)	0人	0人	
	第Ⅳ区分 (多子世帯)	0人	0人	
区分外 (多子世帯)	0人	0人		
家計急変による 支援対象者 (年間)				- 人 (0) 人
合計 (年間)				79人 (0) 人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	-	0人	-
修得単位数が「廃止」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当)	-	0人	-
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	-	-	-
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	-	0人	-
計	-	-	-
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	-	0人	-

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が警告の基準に該当)	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	-	-	-
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	-	-
計	-	-	-
(備考) 複数の警告事由に該当する場合があります、単純合計と計は一致しない。			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。